

科 目 名	作物	単 位 数	2 単位		学 科 ・ 学 年	農業総合 科	3 年
使用教科書	作物	実教出版	副 教 材 等		プリント 視聴覚教材		
目 標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						
学 習 評 価	○ 次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。						
	①知識・技能	作物の生理・生態や生育環境などの作物生産に必要な知識と技術が理解できたかどうか、また、要求された作業レベルに対して満足できる技術が身についている。					
	②思考力・判断力・表現力	作物の生産と経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、課題を解決するために得た知識を活用することができるか、また、解決しようとする力が身についている。					
	③主体的に学習に取り組む態度	ノートや実習日誌において、学習した単元に対し、さらに強い興味関心を持ち、調査しようとする姿勢がある。					
		評価方法\観点	①	②	③		
		学習状況の観察	○	◎	—	自己評価の実施	
		ノート	—	○	◎	学習ノート	
実習・実習レポート		◎	○	◎	実習・レポート		
ペーパーテスト		◎	○	○	定期考査		
※表中の◎は観点の中でより重視するところです。							
履 修 上 注 意	◇授業は単元内容をよく理解し、毎時のノートを取り、集中して取り組みましょう。 ◇イネや、いも類の栽培をとおして、作物栽培の楽しさや喜びを実感してください。 ◇イネの栽培に関しては、農業生産工程管理（GAP）について学びます（下記参照）。 ・食品安全・・・栽培・収穫・出荷の各工程に関しての管理水準向上。 ・労働安全・・・農作業中の事故防止や関連する事項のリスク評価実施。 ・環境保全・・・適切な施肥量や、排水対策に関する取り組み。 ◇授業は、天候によって内容が変化します（座学・実習）。いつでも作業ができるよう実習服の準備をしておいてください。						

学期	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学習活動（評価方法）
1 学期	圃場見学、オリエンテーション 第1章 作物生産の役割と動向 1, 作物とは ④作物をとりまくフードシステム 2, 作物栽培の動向 ①作物の生産と消費の現状 ②作物の輸出と輸入 第3章 イネ 1, 栽培的特性 ①栽培の現状と特性 ②生育のすがた ③生育と環境要因 ④品種の特性と選びかた 2, 栽培管理 ①栽培 ②収穫と調製 ③品質と高価値化 ④生育と収量の診断 ★夏休み期間中にコンバインでの収穫実習	1 2 21	作物が私たちの生活にどのように関わっているかを学びます。 安全で安心な食品の製造と作物生産との関りについて学びます。 イネの栽培的特性、イネの一生について形態・生理・生態的特徴を学びます。 農業生産工程管理(GAP)の取り組みと目的、仕組みについて学びます。	写真、実物、ICT、を使用しながら調べ学習を行い、身近な例と関連付けながら学びます。 イネの栽培について学びながら、農業生産工程管理（GAP）の安全評価を実施し、改善策をグループで検討します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【課題提出】 【実習】
2 学期	～イネの続き～ 3, 栽培計画と評価 ②栽培評価 第7章 いも類 1, いも類の栽培的特性 ①種類と特性 ②栽培の現状 2, ジャガイモ ①栽培的特性 ②栽培管理 ③農業経営の特性 3, サツマイモ ①栽培的特性 ②栽培管理 ③農業経営の特性	6 20	イネの収量および品質調査を実施し、次年度の栽培に向けた計画と評価の方法を学びます。 いも類の特性について、ジャガイモとサツマイモの栽培管理について学びます。	当該年度の収量や品質を調査し、次作への栽培課題をグループで検討します。 作物としてのいも類の特性を学びながら、地域や消費者にあった品種選定についてグループで検討します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【課題提出】 【実習】
3 学期	第2章 作物の特性と栽培技術 3, 栽培環境と生育の調節 ④生育と土壌 ⑥病害虫・雑草の防除	20	次年度のイネの栽培に向けて、土壌分析と肥料計算を実施し、肥料設計の手法を学びます。 経済的に許容できるレベルに病害虫や雑草の発生を抑制するIPM(総合的病害虫・雑草管理)について学びます。	土壌分析の基本であるpH（水素イオン濃度）と、EC（電気伝導度）の測定方法を学び、土壌の栄養状態から次作の肥料設計をグループで検討します。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【課題提出】 【実習】
時間数計		70		